

平成 27 年 2 月 24 日	<b>病害虫発生予報</b> <b>3 月号</b>	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

**農薬を使用したら、必ず履歴を記録しましょう！**

< 目 次 >

<p>I. 今月の予報</p> <p><b>【注意すべき病害虫】</b></p> <p>イチゴ：ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p> <p>促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p> <p>促成トマト：灰色かび病・・・・・・・・・・・・・・・・ 2</p> <p><b>【その他の病害虫】</b>・・・・・・・・・・・・・・・・ 2</p> <p>イチゴ，促成ピーマン，促成キュウリ，春ハクサイ，春レタス</p> <p>II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・ 4</p>	
<p>最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(<a href="http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm">http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm</a>)で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。</p> <p style="text-align: center;">茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445</p> <p style="text-align: center;">予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。</p> <p style="text-align: center;">ホームページアドレス <a href="http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/">http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</a></p> <p style="text-align: center;">新ホームページアドレス <a href="http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/byobo/bojo/">http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/byobo/bojo/</a></p> <p style="text-align: center;">(3月から新ホームページに移行する予定です)</p>	

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

#### イチゴ

##### 1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在，寄生葉率は平年より高く（本年値 31.3%，平年値 13.1%），被害葉率は平年並である（本年値 9.7%，平年値 12.7%）。なお，寄生葉率は圃場による差が大きい。
- ② 今後，気温の上昇に伴い，ハダニ類の活動が活発になるため，被害が増加すると考えられる。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，気門封鎖剤を除いて同一系統・同一薬剤の連用を避ける。なお，薬剤散布は古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用している場合は，薬剤の影響日数等に十分注意する。

#### 促成ピーマン

##### 1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在，寄生花率は平年より高く（本年値 65.5%，平年値 33.1%），発生地点率は平年よりやや高い（本年値 100%，平年値 64%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く，各種ウイルス病を媒介するので，発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は，薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
- ③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除を行う場合は，天敵への影響に十分注意する。

## 促成トマト

### 1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病果率（本年値 0.17%，平年値 0.05%）、発病株率（本年値 7.5%，平年値 2.5%）ともに平年よりやや高い。
- ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が多湿になると発生が助長されるので、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪く残った花卉や罹病部は早急に取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

### 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	萎黄病	発生量：—	2月下旬現在、平年より多い発生である。発病株はただちに抜き取り、適切に処分する。
	炭疽病	発生量：—	2月下旬現在、平年よりやや多い発生である。発病株はただちに抜き取り、適切に処分する。
	うどんこ病	発生量:やや少ない	2月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。
	灰色かび病	発生量:やや少ない	2月下旬現在、平年より少ない発生である。向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並～やや多い	2月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
	斑点病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
促成キユウリ	べと病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	褐斑病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
	灰色かび病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
	アザミウマ類	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
春ハクサイ	べと病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
春レタス	べと病	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年並～やや多い発生である。向こう1か月の降水量は平年並か多く，日照時間は平年並か少ないと予想され，発生を助長する条件である。

## II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 2月21日から3月20日)

気象庁(2月19日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 2月21日(土曜日)から2月27日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<2週目の予報> 2月28日(土曜日)から3月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<3週目から4週目の予報> 3月7日(土曜日)から3月20日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。